

〔論説〕

なぜ日本は西洋人を魅了するのか？

ベン・アミー・シロニー（倫理文化研究センター研究フェロー）

エキゾチックな面

西洋人は日本の何に惹かれるのか？大雑把に言えば、それは日本のエキゾチックな面である。日本は他のどの国よりも神秘的な国と考えられている。多くの国を旅した西洋の旅行者ですら、日本に来るとそれまで見たことも聞いたこともないような出来事と出会う。それは他の国では出会うことのないタイプの人々であったり、理解することが非常に難しい言葉であったりする。日本人の書く文字は、その西洋の旅行者が知っているどの国の文字にも似ていないのだ。また、その旅行者の言語で意思疎通を図るのには問題がある。

日本人の微笑みやお辞儀、礼儀作法や挨拶などは旅行者にとってミステリアスで理解しにくいことかもしれない。日本人の生活様式や服装、食事、余暇の過ごし方なども奇妙に映るだろう。しかし、違いや風変わりであるということだけでは、神秘性は生まれない。もし西洋人旅行者がアフリカの密林地帯に立ったら、きっと彼は非常に変わった場所だと感じるだけだろう。神秘的な場所というのは、そこに惹きつけられることをいう。日本は変わっている。しかしそれは何か恐ろしい場所ということではない。旅行者は、安全で清潔な環境の中を落ち着いて旅をしながら、精巧な技術の近代設備を利用しつつ、美しい文化や美味しい食事、美しい景色を堪能することができる。

日本という国は、古来の伝統と超先進的なものが共存している国である。ある面で日本は、非常に古い伝統が生きている国といえる。多くの日本人が信ずる神道という宗教は、古代の中近東やヨーロッパにあった宗教と似ている。日本人は神域に詣で、床の敷物の上に座り、目を閉じたりして古代の式典（神事）を行い、聖書時代にユダヤの父祖たちが行ったように拝み、跪く。箸で食事をし、時には着物を着て数百年前に書かれ演じられた劇を鑑賞する。また文字として数千の「記号」を用い、上から下に向かって書く。大勢で桜のお花見をする。

その一方で日本は非常に先進的な国としての面がある。おそらく世界で最も進歩・発展した国であろう。多くの人々が穏やかな風土の土地に住み、巨大なショッピングセンターで買い物をする。人々の知的水準は高く、巨大で洗練された世界で最も機械化の進んだ企業があり、人々の生活水準は地球上で最も高いといえる。旅行代理店の広告では、仏教のお坊さんが携帯電話で話をする姿や、着物を着た婦人がコンピューターに向かっている様子などを見せることによって、日本の伝統と先進性の組み合わせを視覚に訴えようとしている。

しかし、日本だけが伝統的な面と先進的な面の両面を持っている国なのだろうか？ヨーロッパにも古代の宗教は存在し、古くて壮麗な教会があって、祭司や修道女がおり、古くから伝わるカーニバルが行われ、村々では伝統的な衣装を着て踊ったり、中世からの騎士の礼儀作法が行われ、法王庁は既に1500年以上の歴史を持っている。また一方で、ヨーロッパにも近代工場があり、科学は進み、文化は洗練され、交通も整備されている。それでも、ヨーロッパは伝統と近代化が共存する場所ではないのだろうか？イスラエルはどうか？ユダヤ人には神道よりも古い宗教がある。そして3200年もの前のエジプトから脱出した故事を今でも祝い、3000年前の父祖たちが話していた言葉に近い言語でユダヤ人は話している。

また羊皮紙の上に手書きされたトーラー（ユダヤ教の経典）を読み、雄羊の角でできた角笛を吹き、メズザー（ユダヤ人の家庭の入口に掲げられる聖書の言葉が書かれた羊皮紙の入った筒）を掲げる。そして割礼という古代からの習慣を数千年の間、守り続けている。ユダヤ人の祭司の家系は、大祭司アロンに繋がり、日本の天皇陛下の家系よりも古い。その一方でイスラエルは経済も文化も軍事的にも非常に発達している。近代的な軍隊を持ち、発達した工業があり、農業技術も進んでいるし、民主的な議会政治が行われ、文学や演劇、映画などは世界的なレベルである。それでもイスラエルは両面性を持ち併せる国とは呼べないのだろうか？機械工職人が宗教的なキッパー（ユダヤ教徒が被る小さい帽子）やタリート（ユダヤ教徒が礼拝の時に肩にかける祈祷布）を付けて作業している姿は、日本の仏教僧が袈裟をまもって携帯電話で話をしているのと同じではないのだろうか。

実際ここには大きな錯覚がある。イスラエルやヨーロッパで見られる両面性の共存は、当たり前のことであり、自然なことである。なぜなら私たち（イスラエル人やヨーロッパ人）はそれらと共に育ったからだ。それに比べて日本の両面性というのは、私たちにとって奇異に見える。同様に、イスラエルを訪れる日本人にとっては、私たちの中にある両面性がエキゾチックに見えて、自分の国（日本）の両面性は自然なものに感じるようだ。